

兵庫芸術文化センター管弦楽団 第67回定期演奏会

井上道義 ピカソと音楽

マエストロ道義による
ピカソをめぐる音楽の物語

指揮／井上道義
チエロ 堤剛
管弦楽／兵庫芸術文化センター管弦楽団



Michiyoshi Inoue, Conductor



サティ：パラード
Erik Satie : Parade

R.シュトラウス：交響詩「ドン・キホーテ」op.35
Richard Strauss : Don Quixote, op.35

ビゼー：アルルの女 第1・第2組曲
Georges Bizet : L'arlesienne Suite No.1 & No.2



Tsuyoshi Tsutsumi, Cello



Daniil Grishin, Viola

2014. 2/21 (金)・22 (土)・23 (日) 開演3:00PM
A 4,000円 B 3,000円 C 2,000円 D 1,000円 (全席指定/税込)

兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール
〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22 阪急西宮北口駅南改札口スグ / 阪西宮駅より徒歩15分 (阪急バス7分)

一般発売 10/20 (日) 芸術文化センター <http://www.gcenter-hyogo.jp>
+ イープラス <http://eplus.jp>
+ チケットぴあ <http://pia.jp/>
+ ローンチケット <http://l-tike.com>

電話予約 0798-68-0255 (【芸術文化センター会員先行予約受付開始 10/18 (金)】)
+ チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード: 207-003)
+ ローンチケット 0570-000-407 (オペレーター対話) / 0570-084-005 (Pコード: S3924)

直接購入 芸術文化センター2階総合カウンター (10/22 (火)より、預席がある場合のみ) ローン、サンクス、ファミリーマート、セブンイレブン、サークルK
※プレイガイドでの入場はご遠慮ください。プレイガイドにお買い合わせください。日本銀行の窓口はご遠慮ください。※お申し込みの際は、出演者、曲目等の変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。◎主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター

HYOGO PAC Performing Arts Center ORCHESTRA 兵庫芸術文化センター管弦楽団 第67回定期演奏会

井上道義のこだわり満載 ピカソをめぐる音楽のストーリー

一筋縄ではいかないマエストロ井上道義が今回選んだのは、スペインが生んだ大画家ピカソにまつわる音楽の数々。マエストロらしい個性たっぷりのプログラムです。

「パラード」は1900年代初頭に一世を風靡したロシアのパレエ団「パレエ・リュス」が上演したパレエ作品。パレエ・リュスは当時の最先端の芸術家を集め、総合芸術と呼ぶにふさわしい作品を次々と生み出していました。この「パラード」はエリック・サティが音楽を、そしてピカソが衣装を担当し、好評を博しました。

「ドン・キホーテ」は主人公ドン・キホーテが同伴のサンチョ・パンサを率いて旅をするスペインの小説です。この小説を題材に交響詩を作曲したR.シュトラウスは、ドン・キホーテを独奏チエロ、サンチョ・パンサを独奏ヴィオラで現すなど、巧みな管弦楽法が光る大曲を書き上げました。ピカソもまた代表作として、この小説をモチーフとして描いた作品が知られています。

そして「アルルの女」は、南フランスのプロバンス地方を舞台とした戯曲。上演にあたりビゼーが随音楽を作曲。現在はそこから数曲を選んで組曲が演奏されています。このプロバンス地方はピカソやゴッホなど、名だたる画家たちを魅了した場所。美しい風景が多くの芸術家に豊かなインスピレーションを与え、数々の芸術作品が生まれました。

ピカソをめぐる音楽のストーリーを、チエロ界の大御所＝堤剛、オーケストラ・アンサンブル金沢で客演ヴィオラ首席奏者を務めるダニール・グリシンを迎えてお贈りいたします。



指揮／井上道義 Michiyoshi Inoue, Conductor

1946年東京生まれ。桐朋学園にて齋藤秀雄氏に師事。1971年グイド・カンテリ指揮者コンクールに優勝。新日本フィルハーモニー交響楽団音楽監督、京都交響楽団音楽監督、常任指揮者を歴任し、シカゴ響、ロイヤルフィル、ベルリン、ハンブルク等の放送交響楽団、ミュンヘンフィル、ドレスデン・フィル、フランス国立管、スカラ・フィル、ロシア国立響、レニングラード響、ホルティモア響などに客演している。1999～2000年、マーラーの交響曲全曲演奏会を新日本フィルで行い、「日本におけるマーラー演奏の最高水準」と高く評価された。2007年、日露5つのオーケストラと共に「日露友好交響曲プロジェクト2007」を東京・日比谷公会堂にて開催し、音楽・企画の両面で大きな成功を収めた。2009年、自ら演出を担当した「センセーション」成功を収めたオペラ「イリス」では、「三菱UFJ信託銀行賞」を受賞。2010年には、「平成22年度東京都文化功労賞」を受賞すると共に、社団法人企業メセド協議会「音おもてなし賞」を受賞するなど、音楽界に留まらない多岐にわたる活躍にも多方面より賞賛の声を寄せられている。2007年1月よりオーケストラ・アンサンブル金沢音楽監督ならしく、石川県立音楽堂アーツセンター・アドバイザーに就任。
<http://www.michiyoshi-inoue.com/>



チエロ 堤剛 Tsuyoshi Tsutsumi, Cello

桐朋学園子供のための音楽教室、桐朋学園高校音楽科を通じ齋藤秀雄氏に師事。1961年アメリカ・インディアナ大学に留学、ヤーン・シュ・シュタルムに師事。同年ミュンヘン国際コンクール第2位、カザルス国際コンクール第1位入賞。2009年秋の紫綬褒章を受章。また同年、天皇陛下御在位二十年記念式典にて御前演奏を行った。録音における活躍も目ざましく、「パッサム無伴奏チェロ組曲全6曲」、「ベートーヴェン・チェロ・ソナタ全巻」などで数々の受賞歴を誇るほか、2010年には「演奏活動60周年記念盤「アンコール」」、2013年には堤の古希を祝って日本の名だたる作曲家たちが書き下ろした新作を収録した「アンバーサリー」(ともにマスターミュージック)がリリースされ、絶賛を浴びている。2001年より群馬国際音楽祭音楽監督。1988年秋より2006年春までインディアナ大学の教授を務め、2004年より2013年まで桐朋学園大学学長を務めた。07年9月、サントリーホール館長に就任。日本芸術院会員。



ヴィオラ／ダニール・グリシン Daniil Grishin, Viola

5歳からヴァイオリンの勉強を始める。小学校時代は、室内オーケストラのソリストとしてデビュー。13歳からはヴィオラを習い始めた。2000年に第4回ユー・リ・デュムル国際ヴィオラ・コンクールにて優勝し、シユマン演奏家とミカエル・タリヴェルティエフ記念特別賞を受賞。2002年にギド・クレメルからクレメラータ・パルティカに招かれ、首席ヴィオラ奏者となって、現在に至っている。グリシンは、G.クレメル、V.レービン、Y.バシムエツ、M.プレトニョフ、M.マイスキーという偉大なソリストたち、そして、テミルカノフ、V.ゲルギエフ、D.ノセダ、井上道義などの素晴らしい指揮者と共演している。2003年にはピアニストのE.ブラフマツと共に出演した第8回プレミオ・トリオ・ディ・トリステ国際コンクールで第2位を受賞した(1位無し)。ダニール・グリシンは間違いなくヴィオラ界の新しい世代のリーダーの一人であり、音楽の深い解釈、センス、目の覚めるような情熱性、高い技術、印象的な芸術性と特別なカリスマのおかげで聴衆にも批評家にも好評で高く評価されている。



兵庫芸術文化センター管弦楽団 Hyogo Performing Arts Center Orchestra
2005年9月に設立。世界中でオーディションを行い、世界各地から若手演奏家を集め優秀な人材を輩出するアカデミーの要素も持つ、世界でも類を見ない新しいシステムによる、芸術監督は佐渡裕が務め、定期演奏会をはじめ、名曲、ファミリー、ポップス等のコンサートや室内楽シリーズ、県内中学1年生を対象とした「わくわくオーケストラ教室」、毎年夏の芸術監督プロデュース・オペラでの演奏など、多彩な活動を展開している。2006年関西気文化園賞ニューパワ賞、2011年神戸新聞平和賞受賞。通称PAC(バック)オーケストラ。<http://hpac-orc.jp>

便利なアクセス!!
大阪・梅田からも神戸・三宮からも
ホールまで15分
(阪急電車特急乗車の場合)



◎阪急 西宮北口駅 南改札口 スグ (連絡デッキで直結)
◎JR 西宮駅より徒歩15分 (阪急バス7分)
※ご来場は、電車・バスなどの公共交通機関をご利用ください。

<http://www.gcenter-hyogo.jp>
兵庫県立芸術文化センター
Hyogo Performing Arts Center
先行予約会員募集中!
詳しくは、<http://www.gcenter-hyogo.jp>